

県立新潟女子短大 山崎光子

目的 新潟県村上市上海府地方では比較的古い形態の民俗服飾が温存されている。山仕事着である藤布衣や、その地方の生活史的背景についてはすでに報告したが、ここでは村の女達の主要な生業である田仕事、畠仕事など農作業時の仕事着をとりあげ、その種類や着方などの特徴について考察する。

方法 昭和48年から現在にいたる十数回の現地探訪で得た資料をもとに考察する。

結果 基本的には上衣、下衣ともほぼ同一種類の衣服を着用する。即ちシャツ、モモヒキ、ツツレ、ミハバマエカケ、オビなどであり、夏にはツツレが除かれ、また寒さに応じてハダジユパン、ハンチャなどが重ね着される。頭には必ずドモコモをかぶるが、腕、すねなどの付帯物、履物はそれぞれにより若干異なる。しかし同一の衣服を用いても、その仕事の種類によって、また年令によって着装の方法を変えるなど、機能的あるいは美的に細かい配慮がなされている。それらは一村の様式を形づくるが、時代の変遷にともなって、その形式を残しながらも推移していく。